

名瀬レーダーで二重偏波気象レーダーの運用を開始します

名瀬レーダーは、雨の強さを従来よりも正確に捉える二重偏波気象レーダーへ更新し、令和6年2月29日11時から運用を開始する予定です。お知らせいたします。

二重偏波（にじゅうへんぱ）気象レーダーは、水平・垂直の2種類の電波を用いて雨粒の特徴を捉えることで、降水強度を従来よりも正確に観測できるレーダーです。本レーダーの特徴は、別紙をご確認ください。

気象庁では、台風や局地的豪雨等大雨の監視能力を強化し、警報・注意報等の情報を改善するため、全国の気象レーダーを、順次、二重偏波気象レーダーへ更新していくこととしています。

今般、名瀬レーダーに二重偏波気象レーダーを導入し、令和6年2月29日11時から運用を開始する予定です。

これにより、雨の強さを従来よりも正確に捉え、現在の雨の降り方の面的分布や「ナウキャスト」等の雨量予測精度の向上が期待されます。

このレーダーの観測結果は、気象庁ホームページ内の「雨雲の動き」をはじめ、気象庁から配信する気象レーダー関連観測資料へ反映されます。

<参考>気象庁ホームページ 雨雲の動き

<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部観測整備課 担当 杉
電話 092-725-3615

- 水平・垂直の2種類の電波（ものさし）を利用
- 水平・垂直の違いを解析し、雨粒などの形や大きさ、雨の強さを推定可能

